

令和4年度 学校経営方針における本年度の重点目標実現に向けた取り組み状況

※「達成状況」の項目 … ◎上回った ○計画どおり ●下回った

1 学習・生活の両面における個に応じた丁寧な支援・指導を通じた、いじめや体罰のない安心・安全な学校づくり	
目標	達成状況
(1) 生徒状況の把握と必要な生徒への支援の実施。	○希望者に対してスクールカウンセラーによるカウンセリングを計画的に実施した。その結果を担任、養護教諭、特別支援コーディネーター、教頭間で情報共有し、必要に応じて外部機関と連携して生徒の支援を行うことができた。 ◎特別支援教育委員会を毎週開催し、特別な支援が必要な生徒について情報共有を行い、チームとして支援にあたった。 ○SHR時は、校長、教頭を含む全職員で対応し、生徒一人ひとりにきめ細かな支援を行った。 ○1年生の寮生全員及び2，3年生の寮生・下宿生を対象にカウンセリングを実施した。このカウンセリングがきっかけとなり、次の相談につながった生徒もいた。 ○1年生全員を対象に校長面接を行い、学校での様子を把握し、その後の支援に活かした。 ○アセス（学校環境適応感尺度）を全学年で2回ずつ実施し、学習・生活両面で悩みを抱える生徒を把握し、その後の支援に役立てることができた。次年度も継続して実施する。 ○RAMPS を活用し、保健室に来る生徒の中で自殺の危険性があると判断した生徒に対し、家庭と情報共有を行い、医療受診や関係機関への相談につなげた。
(2) 地域と共にある白馬校生としての自覚の喚起。	○毎日のSHRでの日常的な指導に加えて、6月と12月に「規律を高める週間」を設定して服装チェックを実施した。また、挨拶の励行と基本的な生活習慣の確立と校則の遵守について周知徹底を図った。 ○寮生を中心に地域の活動に参加し、地域の方との交流する中で白馬高生としての自覚を促した。

(3)個に応じた学習支援。	○<u>ティームティーチング</u>、<u>少人数クラス編成によるきめ細かな指導</u>を行った。 ＜該当授業＞ 1年8科目：現代の国語、言語文化、数学Ⅰ、数学A、生物基礎、英語コミュニケーションⅠ、総合英語Ⅰ、北アルプス学 2年9科目：現代文B、化学基礎、生物基礎、総合英語、英語表現、観光コミュニケーション英語、観光Ⅱ、環境Ⅰ、山岳基礎 3年10科目：現代文B、環境Ⅱ、野外と教養、化学、生物、ニュースポーツ、総合英語、英語表現、国語表現、アウトドアスポーツ ○平日17時以降および週休日の「<u>しろうま塾</u>」において、進路指導を中心に個別指導を行い、<u>3年生の94.6%が進路指導に「満足・だいたい満足」と回答した</u>。そのほか、基礎学力補充にとりくみ、学力の向上に繋げることができた。 <u>実績（4月～12月末現在）142時間</u> ⇒ 今年度の進路先は、18、19ページに掲載 ○公営塾との情報交換を2か月に1回実施し、利用している生徒の学習支援や進路に向けた連携を行い、生徒の実情に合わせた効果的な指導につなげることができた。 1年生3人 2年生13人 3年生14人 合計30人（うち大学受験コース8人）
---------------	---

2 地域からの提案を活用した、環境と観光、国際を軸とする探究的で多様な学びの機会の提供と生徒個々のキャリアデザインの具体化支援

目標	達成状況
(1)地域コンソーシアム・SDGs ラボの協力による教育活動の実施。	○SDGs ラボと連携しスタートした、断熱プロジェクトを本年度も継続して取り組んだ。 ○白馬村商工会から提案いただき、白馬村周辺の飲食店情報を紹介する「ハクバメシ」のサイト内に生徒のブログを掲載。生徒目線で地元の飲食店について紹介するとともに、閲覧数を増やすための工夫をデータに基づいて探究した。 ○白馬アルプスオートキャンプ場にある蒸気機関車の再生と利活用について、白馬村、白馬駅など地域の方の協力を得ながら探究活動を行った。

(2) みらい協育サポーターとの連携事業の具体化。	○デュアル実習を実施し、お客様の目線に立って自ら考え、行動することの大切さを学ぶとともに、人の目につかない部分での仕事の大変さ、人々の生活に欠かせないインフラ整備の重要性、責任の重さについて体験することができた。 3年生：国際観光科2名（白馬東急ホテル、水 ing AM） ○地域企業の皆さまにご協力いただき、1 学年生徒を対象とした就労体験を3年ぶりに実施することができた。多様な職業を体験することで、生徒自身のキャリアデザインをイメージする動機づけとなった。 ◎<u>地域課題である大糸線の利活用について、「時事問題」の授業で取り上げ、小谷村役場を初めとした関係機関と連携して探究活動を行い、生徒独自の提案を行った。</u> ○高校生ホテルを実施し、お客様やスタッフとのコミュニケーションの重要性や協働することの大切さを学んだ。実習を行うことができたことに対して、改めて地域への感謝の気持ちがわいた。 国際観光科2年生 12月19日（月）、20日（火） 丸金旅館7組13人、樫の木ホテル11組19人
(3) 検定資格の取得促進。	○各種検定 今年度合格者（1月末現在） ＊実用英語検定（2級1人、準2級4人、3級3人） ※第3回（1月実施）結果待ち ＊漢字検定（2級1人、準2級2人、3級1人） ＊日本語ワープロ検定（準2級2人、3級3人） ＊情報処理技能検定表計算（2級2人、準2級2人） ＊簿記実務検定（3級3人）

3 支援係との緊密な連携体制の継続。寮生・下宿生に対する丁寧な支援・指導と地域との交流促進

目標	達成状況
(1)「白馬高校支援係」との緊密な連携。	○地域みらい留学参画へ連携・協働した。 ○個別相談、学校・寮見学に県外から6家族が訪れ、支援係とともに対応した。 ※資料送付11件 ○<u>全国募集活動は、対面による説明会を東京5回、名古屋・大阪各1回を実施</u>。また、本校にこれまで入学している関西地区の中学校を訪問し、情報の共有と広報活動を行った。 ○関口千人氏（本校卒業、HEAD ジャパン代表取締役）によるグローバル講演会を開催し、「当たり前なことを当たり前にする」をテーマに、<u>社会人として身につけるべきことに加え、「ブランド化」や「伝える力」の重要性について、生徒が考える機会</u>となった。
(2)寮生・下宿生への支援。	○支援係と毎日電話で情報共有を行い、対面での打ち合わせ相談も頻繁に行った。<u>新型コロナウイルス感染症への対策や、寮生・下宿生および保護者への個別支援</u>に対して、緊密な相互連携により適切に対応することができた。 ○<u>寮生・下宿生連絡会議を毎月開催</u>し、支援係、寮スタッフと綿密な情報交換を行い、生徒指導に役立てることができた。 ○職員による寮・下宿訪問を実施し、スタッフとの情報交換、生徒に対する生徒指導、学習指導を行った。年間を通して随時訪問した。 <u>12月までに延べ87人が訪問</u>
(3)地域の行事、活動への参加を通じた児童・生徒・地域住民との交流促進。	○コロナ禍ではあったが、白馬乗鞍登山道整備、大糸線開通65周年記念イベント、北アルプス山麓物産展、酒米の稲刈り、ポリオワクチン接種の募金活動などに参加することができ、地域との交流を深めることができた。

4 地域みらい留学を通じた全国募集の促進と地元生確保に向けた、地域、地元小中学校等に対する積極的な情報発信、相互交流の強化

目標	達成状況
(1) 地域みらい留学への参画	○全国募集に向けたオンラインによる説明会を合計 13 回実施。 (合同説明会 7 回 個別説明会 6 回) ◎<u>地域みらい留学を通じて、東京で対面の説明会を 2 回実施。</u>
(2) 地元中学生およびその保護者に対する積極的な情報発信。	◎<u>生徒・職員が、地元の中学校を訪問して本校の特色ある学びや特徴的な活動に関する紹介等を行った。</u> 3 年進路講話・学校説明会 白馬中学校 2 回、小谷中学校 2 回、大町第一中学校 2 回、仁科台中学校 1 回、美麻小中学校 2 回 松川中学校 1 回 ◎<u>白馬中学校、小谷中学校のご協力のもと、保護者向け説明会を開催。</u>職員、生徒、卒業生に加え、運営協議会委員の皆さまに出席いただき、それぞれの視点から説明した。小谷中学校 30 名、白馬中学校 30 名 ○<u>白馬高校通信「レポートチャンネル」毎月発行し、白馬村広報誌に掲載していただいた。</u>本校ホームページにも掲載した。 ○本校ホームページに、<u>校長 Diary (46 件)、白馬高の日常 (17 件) を掲載し、</u>情報発信に努めた。今後は、プロモーション動画、TikTok を活用した情報発信を行っていきたい。
(3) 地元小中学校の学習活動への参加・協力。	○保育系への進学を希望している 3 年生 2 人、2 年生 1 名がしろま保育園でアルバイトを兼ねた保育実習を行った。白馬村子育て支援課からは、来年は夏前の早い時期からお願いしたいと評価をいただいた。 ○白馬北小学校 6 年生算数の授業に、「数学活用」の授業を選択する生徒が授業協力を行った。 ○白馬中学校の SDG s クラブと連携し、意見交換を行った。 ○小谷中学校の総合的な探究の時間に、学校設定科目「環境Ⅱ」を選択する生徒が学習連携を行った。 ◎<u>小谷中学校と職員間交流</u>を行い、双方の授業見学や情報交換、意見交換を行った。来年度以降も継続していく予定。